

小学5年・国語

オンライン学習・ハイブリッド学習

ドイツ・ハンブルグ日本人学校

I 前提

学校環境

コロナ直前に学校全体の取り組みとして、不十分であった ICT 環境の整備を進め始めていたところであった。2020 年度の ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業において、オンライン授業の整備が格段に進み、iPad をはじめとする多くの機器を導入することができた。特に Zoom 無料版から Microsoft Teams へと移行したことにより 1 コマの時間制限がなくなり、より安全でスムーズなオンライン授業と、教材・課題の配布・提出ができるようになった。

課題と目標

＜本授業の目標＞

- 自分の考えの理由の裏付けとなる資料を見つけ、それを引用して意見文を書くこと。
- デジタル教科書を使って文章を読み、資料が文章のどこを分かりやすくしているか、資料が効果的に使われているか判断しながら読むこと。
- グラフや表、統計資料を用いながら意見文をまとめること。

2 実践の内容

活用した ICT ツール

ハード

iPad
Apple Pencil
iPhone（教師用）
Epson プリンタ
lightning 接続キーボード

ソフト

Pages
Air Drop
国語デジタル教科書

具体的な活用方法

- 資料集めに iPad を使用。Google などの検索エンジンを使用して資料集めをする。見つけたグラフや表をダウンロードもしくはスクリーンショットで保存する。
- iPad のアプリ Pages を使い文章を入力。入力時には iPad 用 lightning 接続キーボードを使用する。時間内にタイピングができない児童生徒は、iPad の音声入力モードで入力する。
- 効果的なレイアウトの仕方を考え、保存したグラフや表を挿入する。

- 途中までのデータは Air Drop 機能を使って教師用 iPhone にデータを転送して保存する。今回の授業でまた Air Drop でデータを共有してもらい、作業を続ける（オンライン授業であれば Google Drive や Dropbox、OneDrive など他のアプリケーションを活用可能）。
- 完成したら PDF で保存し、Air Print を使い Epson プリンタからプリントアウトする。
- プリントアウトしたものを教室に掲示または冊子にまとめ、皆で読んで確かめ合う。希望者には PDF のデータも配布する。

児童生徒が作成した事例



3 成果

ICT ツールを活用したことでできるようになったこと

- 書いた（作った）文章や紙面を複数で共有することや、児童生徒同士のコメントや推敲などのやりとりがしやすい。そのため、作業をさせる際に他の意見を取り入れたり、読み手の意識を持たせたりするのに有効である。
- インターネット環境とタブレット端末があればどこにいても児童生徒自身で取り組むことができ、完全にオンラインの授業や対面を組み合わせたハイブリッドな環境でも学習を進めることができる。

児童生徒、教師、保護者の反応

- プレゼンなどの資料作りが家でも出来る（児童生徒アンケートより）
- アンケート：「オンライン授業ができる環境が整備され、課題の提出や教材の共有など対面授業でもオンラインの良さを取り入れることができるようになりました。今後そのようなオンライン授業の利点を対面授業の中でも取り入れていきたい（欲しい）と思いますか。」に対して、
「はい」の回答が、教師：100%、児童生徒：75%、保護者：86.8%